バイオ医新

TESホールディングス

「歯槽骨」再生を全国で

TESホールディングス（東京・文京、林明男社長）は大学などの研究機関で生まれた先端技術の事業化を目指すバイオベンチャーだ。東京大学医科学研究所が開発した歯の生える土台となる「歯槽骨」を本人の細胞を使って再生する技術に着目し、特許を出願。歯科医院を募って同技術を使った自由診療を全国で始めるなど投資の回収期に入りつつある。

「このアイデアを事業化するにはどんな技術が必要になるか」――。同社の堀祐輔再生医療事業部部長は「事業という出口から発想するのが当社の最大の特徴」と力を込める。優れた研究成果が生まれたから事業化するのではなく、「手がけたいビジネスに必要な技術に絞って特許を取得するのが事業化の秘訣」と強調する。

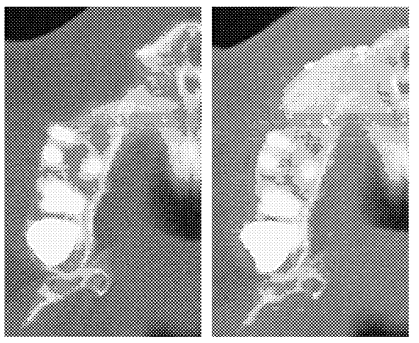
同社が着目したのは東大医科研が生み出した再生医療技術。歯が抜けると土台の歯槽骨も薄くなってしまう。歯槽骨を再生するために腰やあごの骨の一部を移植する場合が多いが、体の負担が大きく、時間もかかるのが課題だった。

東大医科研は患者の骨髄由来細胞から骨のもとになる細胞をつくる技術を確立。これまでに比べて格段に少ない負担で歯槽骨を再生できるようにした。林社長らはこの技術で事業化できると見込み、2008年から共同研究を開始。09年までに4つの特許を出願した。

8月には国内初の「骨再生診療科」を東大病院内に開設。患者を募って臨床研究を始めた。再生した歯槽骨に人工歯根を埋め込むインプラント手術を実施し、治療効果を確認するのが目的。年内にも診察などが保険適用となるよう高度医療の申請を目指す。

TESホールディングスの概要

▽所在地　東京都文京区本郷7の3の1
▽設立　2002年4月4日
▽資本金　7500万円
▽従業員　20人
▽事業概要　臨床研究、再生医療に関する研究開発



歯槽骨再生医療で細胞移植前㊧と歯槽骨が再生した細胞移植後6カ月

TESホールディングスの創業事業はサプリメントや健康食品の安全性や有効性を確認する臨床研究の受託だった。食品会社や化粧品会社が客観的な評価のために、社内研究から第三者機関への依頼へとシフトしているのに注目した。

臨床研究受託事業が順調に伸びるなか、林社長は難病にかかった親族が最先端の治療で回復するのを目の当たりにし、研究機関に眠る技術の実用化を決意する。

テレビで研究者を見かけると電話をかけて話を聞きに行き、事業化できる技術を探し求めた。こうして出合ったのが医科研の歯槽骨の再生医療だった。

同社の11年6月期の売上高は約3億円。ほとんどを医薬品や化粧品の臨床研究の受託が占める。今後はようやくメドが立ってきた「再生医療を主軸に据える」（松木貴志経営企画室長）と話す。

全国に7万件ある歯科医院から同療法を実施する医院を募って研修を実施する一方、歯槽骨の再生に使う細胞を培養するセンターを全国に10カ所程度確保する。

歯科医院では来院した患者から骨髄細胞を採取し培養センターに送る。数週間かけて培養したあとに歯科医院に戻し、患者の歯槽骨に埋め込む。歯槽骨が治ったら人工歯根を入れて治療は終わる。

歯科医院とは複数年契約を交わし、営業支援やノウハウ指導料として300万～500万円を受け取る。歯槽骨の再生費用は歯3～4本で40万円程度になる見込み。数年で全国300～500カ所に広げる。

細胞培養施設の確保を目的にジャスダック上場のバイオベンチャー、テラと提携したほか、長崎大学との共同研究を通じ培養期間の短縮を目指している。同療法の普及に向けて継続的に布石を打ち続ける考えだ。

（上月直之）

掲載日　2011年10月17日　日経産業新聞　012ページ

(C)日本経済新聞社　無断複製転載を禁じます。